修理大夫顯季卿集

左京大夫顯輔集

内務省圖書
號……第
類……書部
函……
冊……一

和書門
二七六四九號類
七六函
一四架
一冊

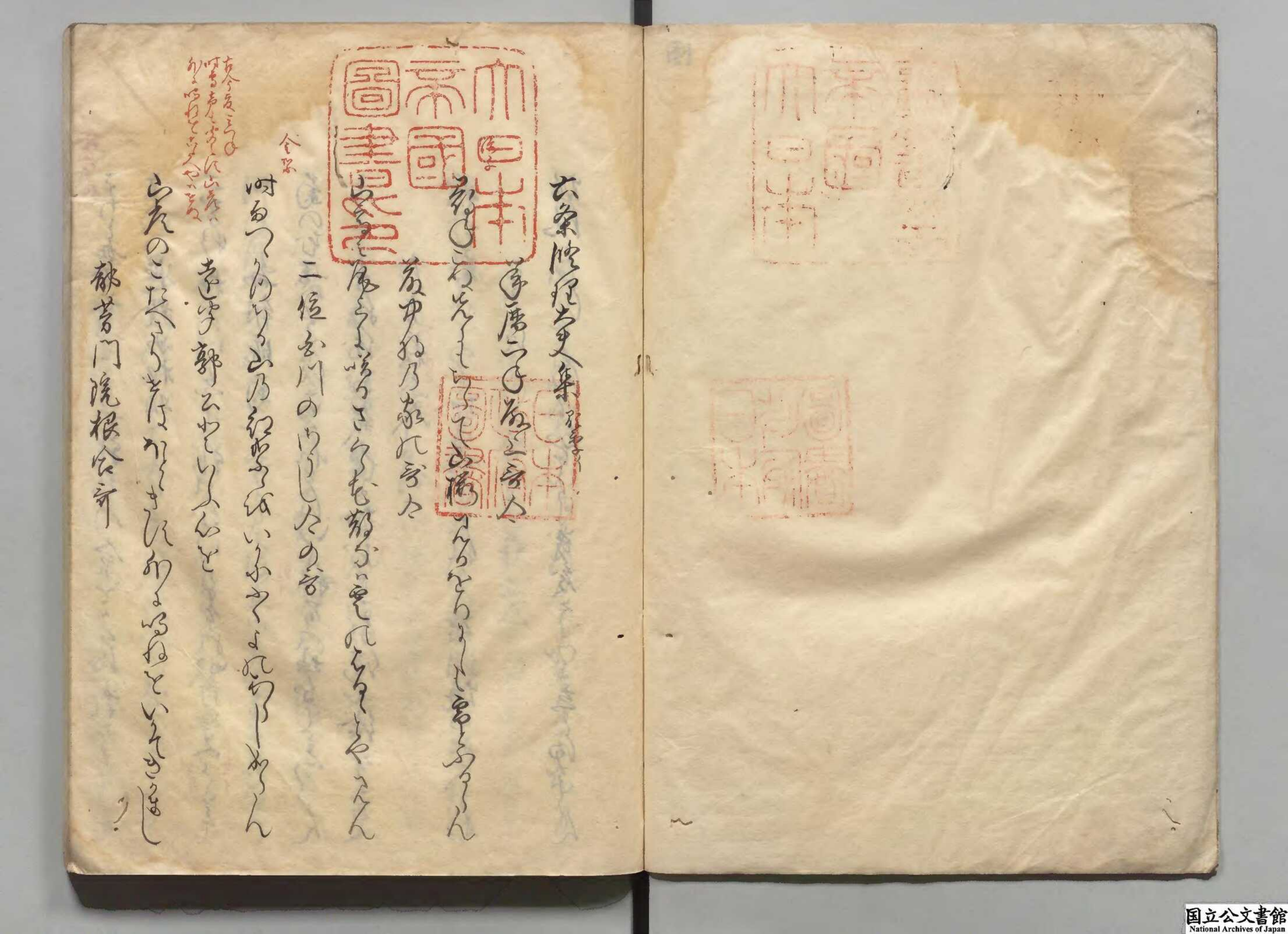
772
内閣文庫
和・書
二七六四九號
一冊
二〇函
一六架

内閣文庫
番號 和 27649
冊數 1 (1)
函號 201 772

糊などで貼り付けられている部分がめくれない箇所あり

国立公文書館
National Archives of Japan

国立公文書館
National Archives of Japan



内閣文庫

亡象院殿室人集

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

二位殿川のうしろの谷

今宮

時雨てふるは山乃紅葉ばいかゝよれ[illegible]

[illegible]

山人のこたへさすがにまさりけるなるとぞいとゞ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

流行撰

うらもなくうつしうゑし乃倉とうゑ侍れなりけん

題詠松題

二葉より松をのみ見て育ちぬかりけるかなとみるにつけて

無朝臣菊

菊の花ゆつりにおりしをれいく秋ぞ世にてうつらん

寄梅花お載今よ加ちる梅の香を給ふ二首

たゞ方萩ふ入

萩の花散らぬ枝にはかくれなく梅の香ぞ

ちるにぬ

梅風ふるいく春ぞ知ぬ

幾度うつる立ぬらん

続後拾

梅枝ぶ入

ちりのこる梅の花ぞ春風ぞ散ぬ

ときわいろ

ぬくいろとぞ

今

春ぞ来ぬ

ちぬ

菊の白しぬ

春ぞ来ぬ

ぬ

春ぞ来ぬ

ぬ

春ぞ来ぬ

抜書一

略の文は刈田ゟ稲ゟ元のゟ人のゝ[illegible]わるん
人〳〵毎年の地[illegible]以部をとらる
毎度しゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]村元
三家の内書よりゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]の書状[illegible]以部を
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]乃[illegible]ん
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
いゝいゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ん[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]乃

行ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

行路秋花

雲とのみ花の梢に鳴ふるの秋の雨にぬれて

二月廿六日京極殿四講始しまの日詠

ちりはてぬふるの梅の花ぬれてはるかすみ

六条殿にて前栽の人篇とり歌をよみ侍

りしよ

梅花

梅の花のまちかくにちりて蘆のかすいたりてそ

花の池水にうつりいろ歌を高砂のしたに

四人くしして

霞の音にて池水にうつりて鳴鶯

帰雁

ちりてんとまちてんとん言霞にうつる人かりの

水よりて山のもとに知と歌をくくりて

歌合詠門に山にたつ人乃言人にうつりて

ちり西くらしの日のあかしの河にうつり

ちりてくかちりとして言てのうしてあて

馬乃歌として住吉乃神を國基

詠ちはいけねと言ふ人をおれらを

といひけしの題

[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

依月変涼

雨中雨声

遠村早苗

逐い草流

曜麦満庭

盧橘暮薫

神恵

過不去恵

大ぞへ高くたかく乃何なんかあてはまるべきなうあ
卯花垣
河の一よもすがら鳴る卯花垣
遠夜待郭公
さてもわれ幾しらぬ命今ぞかなしき
待宵関時鳥
清水こさの海にわけいりまたたのみ人のあさぎりの
樹陰苗代
あぢの実なれぬる夏のゆふ陰もひととせのう

正月十日清水ちかくまうでて関白かさ
よ地ちしこかてこの事ども申しあきらめ
二月廿日ころよりきやうにて正源あさ
ひとのたのもとうふてあるしにこちらへたち
し橋のむかうをみくるにやりし
むとんと相てよりもて我橋ゆうしも関白
あるりのこ乃むしろにたんなん色
こちらもかりの命なるれい重衡ちかく都しまち
二月廿ころとひ関白伝いふるあるてき
ちこいひらしし西月の十日清ちう

風のうつさにさし知るるもしらで松たちて
て去のゆく秋をとどめかねてとどまるとも
きりしらぬ又はつくしてい
秋ぬるそいふ風をまちてをしらるる
人し

高柳のいとゆふかぜしたれてふしかし
別れとのの秋を人くに月を指君を新と
ちらに

金柴

松の色をかすかに秋の風ふるんっ
高柳の夜の露をはらはるとのひしよ松葉

遊年題

ちらぬ枝さしもしる松の色のわくるをうつさ
七宮をて人くに松のひしかよりを忘の宮
年を待つまの神よこそ端の新しく人のいねん
月しかをて梅花を新年忘

宮のうちにつかうか梅花を新にてやるん
ちりてをうつ梅を忘れ
四月宮のかたしの大酒をて実の酒り

きこしし

金柴長

あるものをてらつふ酒をいとしく知るを人をし

返

新たなる春の初の言ほぎ神もとりやいはひくるらん
為忠朝臣の家の梅の花のもとにて人々あまた
うちつれて歌よみ侍りしに
月毎のいとなれば思ひ出でぬ春にいつるる花
恋

雲居の梅よりはなれて我恋ひ人のこころの思ひ
あれ
右近のうねめに人々かたらひて侍りける
ものいひてよみ侍りける
恋

花の色のうつるを星の嫌ひしるらん
ものいひてよみ侍りける

こころ
ひとつよりこころ
同月朔日の歌大納言殿にまゐりて
物語申しまゐらせ時なりしかば
返し
大納言

二 まちつる物をこそ待時なる物なれ月と月とをふる
同じ心を侍従奉後公のもとにつかはす
返し
君こそ君のよりて部屋やとるはし
うちつるこころ
きつる乃人の分つ

くんこちのよたのしくかへし事はて侍らふ

一文紀伊　新古今紀伊集也

恨ぬ(なくく)ちよの袖と人をしぬ

返し

ぬれてしいちよの袖よりそてる紅を恨ぬるなむ

十一月廿日の頃ほひ紅葉乃わるもの

けのそるを送りく

きくらはおほ山を立ぬこの月けの頃おもしと

返

そらをはいそうをしおほこの月けの強て時雨

をふる月はなをといふ歌を

人紀

ふるの里の月と庵の月まかつてあるさらめや

さら伝

月を猶のかのやといふ歌を

永出て源氏のうちよ源氏月のえそらの月をそ

松姫君文

かをそて紅よ和乃物ふ岩小松乃ふるをしら

秋花催無

よそ物ふ世人よ公やいろれんなかの葉乃なしちをい

紅葉

紅よふくそみ山ちあと海ちのひそて乃ち乃岩ものち

志賀の花のてちらくさくらのいろくへとみてあるべし 源氏物語

岩代の世界に立る法師の雲いつくへとみてあるれ

をそこそんらくさいめんさとりて侍ひ

ものしくしたるもしてもたるそ

なをこに彩をてひる蒔蘭の根の花をいとひとるか

返し 中将

ちはやふる神のいさめをけてもなほ花色しあるへき

紅葉の葉乃風の侵ぬ間はこそ

いふとかしこしやりしにく

返し

紅葉乃風の侵ぬ間はこそ

ちはやふる神のいさめをけてもなほ花色しあるへき

中将乃城川乃流れ

松葉姫君

流れて山家の花紅

安ひこ宋のかこうんてあまをけるみるへのちと

人のこゝろをそらくしひしら惜みるて

源氏のものがたりの志賀の山ごえ

はつかなる紅葉ちる山のあらし

返

今ちるはかりなる紅葉ちる山のあらしはつかなるよい

華山院藤

色はかりそつる山の紅葉ちるあらしをみてやゆくん

出

ちるもの〻ちりてのこりし菊の花

月照菊花

ひかりそふ庭のよしの月の影八重咲菊の花

落葉埋橋　并

忘

金葉秋

をしなへ山のあしの葉ちりしき紅葉ちる

弱はやしらはしたる花そよ忘るゝ人をうらやむ

月

三笠山さしいる月の影ちりてをうめ

山家待花

星霜のつもりしかとも見花延齢部

中院右大臣

彌生ことのえさえて梅のくゝをなくうぐいすのあしもあれ

江中納言

しに梅のかてたるしとらんてあ

天ぐうて彫りて云う橋也 [illegible]

又の返 [illegible]

云角よきて [illegible] よかしらたれ [illegible] 岩こいてきん

二月許田融流既義情人々 [illegible]

[illegible] 山里小さうとみゆる [illegible]

堀川流 [illegible] [illegible] [illegible] 初方也

よ行名改色顕

[illegible] 流 [illegible] 行の緑乃色も色つきてに

国二月 [illegible] 時二月 [illegible] 初方一そ

[illegible] 年号 [illegible] 河 [illegible] 許 [illegible]

二月乃 [illegible] 月と [illegible] 也

返

[illegible] 部云 [illegible] 云 [illegible] いてきけん

長治二年三月 [illegible] 行者 [illegible] 云おくらは

[illegible] 池上花 [illegible]

[illegible] 橋乃也 [illegible] 出つゝや行のかゝめん

[illegible] 荘厳流法服乃坊み

[illegible] 又の [illegible] 酒 [illegible] た

[illegible] 乃 [illegible]

[illegible] 乃 [illegible] 世の例よ

題

みるこゝろ枝乃ゆえの身るかしらかな

ひ月よ人の印枝をたゝ〳〵たゝしに出るう

しなゝ

こゝろ山ちさるれは為ふいのゝ〳〵つとたてまつる

題

紅葉の枝のさまにみるこゝろをたゝ地ねへ〳〵

中納言姫君のいのゝよお歌流り正月十子

日ふ和てゝ〳〵にわかを池〳〵

こたゝるふいるるるいるかまつやロ和をつよ四ゝまし

かゝりて色

ちるこゝろ日の枝よ引つ色て葉つひ〳〵ゝ為るとい

ちゝ河そて作色〳〵ゝるゝ〳〵如爲ゝるとて

紅をゝるゝゝるゝ如爲にてゝゝ紅爲

紅つゝる色て爲つ紅つをゝ枝ゝさゝゝ山ちゝ〳〵の風

枝ゝ〳〵姫人ゝゝゝて如爲也

紅葉て雅ゝゝん如爲也雪の色ゝ爲ゝゝて

菊契千年

色七色ゝつゝ紅菊の花みを紅秋のゝゝゝ山へい

月照紅葉

うすく白紙にて[illegible]の[illegible]

忘

忘草の花の洞と思ふれとかりの宿乃色にいてゝ
岩代乃地中にてる清水の松こそ[illegible]こゝろ
浪の[illegible]岩のひしの乃[illegible]

依花忘家

[illegible]

[illegible]

[illegible]

返

百代のうつりとゝのへいにしへをこゝにあつめて菊のか
花人の情はかはらぬものなれはうつりかはる
世をむかしをとはせむとて人をかたらひ
ゆきてこの世をむかしを物がたりてあそ
ひくらす

ちとせをへぬるかとのみ思ひしられしかたりきけい
ひとこゝろこの座をしたりとうけたまはれ

吉凶よりかの賀のおとし物もあるべくいとねんろ

遊

志賀の花かつへしとうあるとにはるはたもおりしりあ

人くつをくうて志賀まみしに

昔の山のつたうはきさのさとみてとに志とすうあ

後忠事相家をて方十そ志乃家演しる志

志てしたるのをてのうの物ハ雖ハ人ハ物をあひ

きて上のの志

全

西津志後家の後の志てうあいてすの名ひしも

ちうてのうしい

手載

うかうくいはの心を弟きけ同志の掩乃法ていうて

ふしあうまこあれるよ志

手あいの花名志家をすにうてこけん妹のあひて

いのうてうはいはしい

はうあの彩を弟やうけうん家婦まを言人をかに

住いをうの志

人ハいるも志ハ法くとを毎をはて幸ハかうあ

法てはいあ志

志ハ法はつそうるくうん物の月日迄ハて地へて

半花きて志

ひとつもの声をきくにつけ衣を敷の夢よ独のねられぬ

いせ物がたりにいとゝ哀

をもふ風の中にうつる月をまちてふしてかゝる山のはをこそ

かゝりしとこゝろ深き哀

いつゝみのまつにまつ秋のいさゝかにちるさくらん

於七条堂人〻

今ゝ咲ちるさくら梅ちるゆすの葉ちるはつ

風雅集

花ちるものとけく旬へさくら哀

金葉

梅むめにはるかゝるいとのこゝろをもとめてもゆ

ゆるに旬なる哀いかなるとてみるさいとてはつしれば

ちるとも哀

梅つぼみ花ちるまの心乃さくらもちるとも花ちるまの心乃さくら手梅ちるをまてれをちるをいつふ

中ゝいとうしふ

春風の吹ちらすに散さくの花もかくれなん

春惜（晴元）

立花題

さくら花匂いとうそは何しらん春をしるこのうぐいすかな

桂の山花さく山郭公并

名残日入依乃山ゝ花さくしるしなきまに

ゆくゝ春ゝ花ゝ貝ひろゝ神祠海辺

水亀蘆葉鈍

月波をあつゝ八神ゝ前ゝ合て花ゝ咲ゝ

内府於東三条夏夜月并恋人

（イこゝ）

（彩色）

（浅葱）

月かゝゝみゝかゝゝゝあゝけゝゝゝ夜の月

玄の雲紙を切ゝゝゝゝゝ人ゝゝつゝゝゝゝゝ

長實朝臣於八条亭帰路船并

彩ゝ妹ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

内亭晨并

ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

曉鶯花

ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

同日 晩花 景色

[illegible]

永久四年四月四日 鳥羽殿北面和歌合

卯花

卯花の[illegible]山里ハ夜ハ[illegible]

郭公

金葉

[illegible]集

菖蒲

[illegible]

早苗

本此間有堀川百首題字墨之他日可補入

[illegible]

[illegible]

[illegible]

人々歌を并 新中納言

[illegible]

[illegible]

帝関部 百首

むらさきの[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

新中将家和歌合部 [illegible]

[illegible]

[illegible]

[

六月廿九日の新聞に次のごとくしるす

海路部に茅山を

なきかの無ものうしかなきたれ声高かたをうつ

四まとるに今かのごとく立てくれ人かをちふるかうるも

六月四の時ものくつもるよ行ふ花はあま

しかいなく人くの中かいらしかい花のう

乃つこ後れ乃つこ乃高砂依あさかすれ花の乃て

に中るこをいつつ山たらし何事ちを

をこのつん言をてみつ花乃いと久

しくなり行ふなり行ふ言んのうれ浦

四月の中の六日の夜いとゆかつかをと

大井川を中に花の中のいかるこきてあるよと

をるのあやられ行て宗中るのをけ

もをん色ふ

十月廿乃宗祇ゆて五ををたて中をあからぼ

花の名和をけ

からを花の中つれい

をのをいつて中んをあるをんををく

ひふのいむいしくんのちを六月四のつを

か紙ゆををにみつるの八しくゆをは乃川乃

ゆうれををるをかんかをを

[illegible]

[illegible]

[illegible]

人丸祭

夏歌

[illegible]

[illegible]

夏恋

[illegible]

岩家恋

つまもなき人のつもりてあたらしき[illegible]

七夕人々[illegible]

[illegible]

月為秋友

出[illegible]

九月十三夜詠月和歌并恋名一首

[illegible]

岩家恋

いふかんの[illegible]

月照張岩并恋

[illegible]

[illegible]

[illegible]

殘菊留秋頌并序

[illegible]

十二月廿六日[illegible]

[illegible]

[illegible]

古代のうた橘丸のりくに日記をとい
ものしるい
茂代と来うらむらふるれいうをくをくしるし
人〻歌を茂橘茂平忘歌をとうて
道ひとてみよの茂うたうまておうしに時の中ノ吹
歌をこの三波さね時ならぬ水のき独ものの月をこれ
平当流儀の謡作歌日人〻岩茂平忘歌を
かとの戸乃茂の戸をやうして歌の月に紙をもるる
雨中時鳥茂平忘
六月あく雲のしらほうきに雨をうつて小和井をうる

雲のうちうとうちうて柳の水のつよきる紙ぬうくを
旅屋橋葛風和歌
夕つく柳ぬ花ふうして風とた紙ふるる柳
雲の色てこの忘
柳をうこて紙ふるあるこ柳をいうく茂をこ花
侍中郭公歌茂平忘
反歌花をこううう杜鵑のうをおしに今をうく時
ふうりに時をこに夜の月をふ花をつや忘の夜をうん
華花岩林歌流人〻
茂じて柳をいつおく成をうう流ふの柳ふをし

曉知早涼并意

秋風や白く吹のうく蓼の穂

あらたまの年の迎のふ如月むつまじく語ふ法の師かな

月和撰歌并奥今夜意

業の居も世のそれも定ぬ同しこゝろまつる月うれし

いつとなく空にうもれ中〳〵よゝしゆく空を思ふ人〳〵

つゝ

ひとりのりて俊敏の志をたゝらてはなくく

ゆきとけるしにいくらいはせたるし雪か

乃つゝれよ鶴つゆ〳〵そて行つるさかよ

せのつゝ〇〇せとせるふちのうゝ流乃

ゆくかの月の西にうつるまてしるけさのそらの

そなたなつかしう彩つゝれ〳〵卯にはせへ

新乃こゝにして北斎の写せ少れらはそ

おく山ほとゝふ鶯よりあいさつ

りうあ乃ゆくをかてゆくしく三ぬさい

もさしいりれと純の山うゝ不絶もにい

たゝ面をに乃砂ゆゝ山かゝ紀海乃

つゝかゝ世へゝ人ゝ世わふれく

世ゝるこ移れとそふのかうけを

なれ人乃う雪の降よりくゝ山のよ。

不

[illegible]

[illegible]

[illegible]

の志賀の都をたてゝ世をうしなひしかの
ともがらの亡魂なのこりとゞまりて
たいうんをそやしてむかしの法を敬て
かたにあいをてしまれるの悪乃ふれいう
のくに、ふきくるめるをうらやましてて
出家のこゝろをのこんとおもひて行ら
なら海もゆきとれてまつわるれ
ゆくへの波をたゞ風のまにまにしたがひ
わん山にゆきて都をうらやましてゆくと云歌
御堂の塔のほとりにかくれゆきて声さやか

むかしのうらみをたゞのこゝろ深みたゞ
流山にゆきて橋上義経と云歌
義経ゆくへをふりかへりて義経乃
時分に亡人くるまに
義経をしたひてゆくへをしわいを歌伯の悪乃しのびねの声
高乃のいとも人しうらめしう
弁慶乃部と云亡人くるまに
打ちてしたいうの杜鵑
河内なる淀のいとの乱会てらやへをもれ
かうみ

金泉寺 吉兵衛伯
色入わまつらうくく
東物の一一十月

彩雲ハイカイ
ゆゆ紅いろ
ゆゆゆゆ
ゆゆゆゆ一一十八月 佐藤

[illegible]

[illegible]

[illegible]

義経上
野ゐくこう橋
のうちれいくし
下今月 歌書

飛山の家をつゝして大井川いくよまでとう家のへめるん
いるさんしかれし家のわねるとおもはれたるかへ
歌
二条殿より松をいとうとて歌ども
花橘柳よりにしかふ
橘乃さいらのまよりし匂ふ袖たちかけるか
恋
恋ゆえ心をやる。歌枕乃れなめふるるもゆるか
当恋乃うゝ乃義人のおもひもれみまほうのちれ
ゆくゆくしよう
みてもちかほ

ふるうていとをかしかの水流れ流れ
過去乃れとうとう世をて俊成流れ
義代をいとうかのあれをいかるんるすあうう
寄七夕恋
ゆこうの月しかまいくてうるこ
長公のそれを恋こ公歌新城ものしる
山橋八をかの新みをとうとう風もいかいかうて
暁を学公やの云歌新めて
ゆうしよ
義光で声八そ明学い夜のよの月花やうるん

1

永徳法師の橋をゆたかにて
[illegible]
返
今[illegible]

和哥三百四拾九首　其中人哥三十三首相互通
　　其三百七入
治承四年九月廿八日書写了
建長五年正月廿日以藤三位本書写校合
文明二年五月於禁又星七陣下古写之
仍校合畢

[illegible]集不見家集哥　一　私書之

池水とよもの
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

忘

影忘れなるふるの杉ゝ人乃つまとうみ乃ふし

太條宰相家方会　晨

年毎にかゝるわゝ言ふこの山乃雪乃ゆふ

月

いとゝ照月ゆゝ美蔦ふ乃ゆふ乃ゆふ

祝

かきりてゝ長ゝよゝいとゝふるゝ行末ゆふ

枕乃伊通のゝうて曉月図歌といふ

月けゝ影ゝ乃ゝ山ゝ時ゝ山端ゝ乃ゝ

人の作ゝうゝて西ゝ行

指ゝ人ゝ所ゝ乃ゝ宮ゝ

俊恒ゝ古実歌合ゝ歌

影ゝ乃ゝ海ゝ人ゝ乃ゝ

雅定中納言歌合ゝ部云

山ゝ乃ゝ山ゝ乃ゝ山ゝ

忘

百代

ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ

人のゝ

ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ

六条宰相乃ちかく侍ける社月といふ歌を
みるとしてかの月の清きをなんとてやしぬる
今門渡て実説月を
歌乃字を清みのかうそ侍ける月の名ぬしあるし
右兵衛督家方合る夏恋
夜夜ひとくるつき人こそ絶ぬしてうるはしき
返し
ふるしいとをふるふるいの庭衣あやくらのたちうるん
雑歌中太皇太后宮
いとう思ふとはなて侍ける
いつてとてとてよ姫とてとふとてやいまとて
むつさのはちまちちるおもはちるれ
ちちしとのなくれ
さたやこの君をけて学ひて出ちてのこるん
地ちのはつさもやしく侍て人くるれをと
ふもとちのつ義遊年を歌をつふ歌
義代ちうしき色の色のかしいふるひい学つうそん
橋
学時をめのいまのるる色とこ春てうる人ををけり
をむとそいくてのしに橋のめをそうれてうるん

都をいでてむかしより世中の人びとのかたりつたへん

歌

金玄上

むさしの花のかをりよ歌の花ぞかをりをかしき

時鳥

かすみわたりなそこかしこ歌人のうたふをきゝつるん

かたらさしんをそなたよりふれてとゝれとゝ時みしく乃さを

如帛花

金狀

金屏やいかゝらん如帛花いろ〳〵にうつしてふとて

玄

幸ふかしとんてすゝちの家毫やうちふかむちまの花の姿

金玄

今ハさは定とんまてかうてうを倉とるとんをのふてうか

こい絶て寂のつとれい歌かの花をんてゝ成りし

金玄上

あふとをそうてのこいをふしてをうて人倉しをは

いそねをまをいとうて琴の音を高を忘さうん

考元

いうらうし年三月をのうを

金玄

忘れわうわふをまをたて立つうをいかうに物と

お世上俗歌撰集うけのうてあるん言を

とゝくいをうつわしてて

金紙上

歌の代ふわわいををのうをのををうしををうし

西一

[illegible]杜のことなし思ふ[illegible]その風乃[illegible]
[illegible]人のもとにいたりて消息し[illegible]
[illegible]を[illegible]れたる[illegible]
[illegible]

梵

風ふけばちるとはなし[illegible]ふの家
[illegible]て月をまつらん
[illegible]のもとふ[illegible]たものに[illegible]月あ
[illegible]人の[illegible]門院の
[illegible]唐綾の一尺[illegible]
[illegible]書[illegible]

法皇御製

[illegible]つて[illegible]を[illegible]
[illegible]世の[illegible]
[illegible]人[illegible]
[illegible]

彰古裏

[illegible]のまに[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

彩古堂

玉弗紙

[illegible]秋の山里、
[illegible]
[illegible]のむしもの川原に[illegible]
[illegible]氏人の[illegible]いかをとい[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]人のあにあむ[illegible]
[illegible]
[illegible]源といふ[illegible]

[illegible]
大武の[illegible]東国[illegible]のいて来
[illegible]
[illegible]
[illegible]公[illegible]の牛[illegible]
源伯西宮[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

菓祝

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

春

[illegible]

恋

あはぢはやく[illegible]の[illegible]

[illegible]

[illegible]

ねの西のをてゝいとたかしてしく花さか
く人くのうゝすきとおたまつ春長殿のう
をとく屋ふて
うわとさをしたの神ちたはしたんれうとこれそとを
遊し
ちはたの神ちれてをるをつふ人のんのをてを
月の宅叶いく世中をちをしく芸西の法
人の許よはうてはるの
うはなとをのてふうはさいてゆ変人語んわるまつをか
大文中納を歌会をちう

会宴のをゆ川をの橋ふちるうをはいうをまし
芳
芳のむ乃称てくを屋はをはるをはいそきは
嘉
ををう海の朔をもをふ小北山いをの嘉をはかをかをあり
月
山猟を寄をうををを就四郎を出をの月ををを
紅葉
若のむをを見けを西を色ふくを
恋

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

麥

[illegible]

霧

[illegible]

古

[illegible]

萩

[illegible]

[illegible]

[illegible]

一所と祈くらしをとりて祈くんけるまの神
を落成の時大業云々如為総記方近江守
風俗和歌十首　猪之倍行幸文義近江守大皇大
后宮亮藤原朝臣
稲斎歌　郢州那
大永二十一
人心をすの神と崇るよはをつきをとふいねと
神楽歌　三上山
続古今神祇
あふ振みうこれの山の榊葉紙かくいとをとれし
春日三音声　弓御倉山
をきりはなちみうこれ出るは玉ふ出代多
同日楽破　玉義井
濁りなしをけの井乃底きよすをとれ行年を
同日楽急　長等山
玉賀
君よいのちの山の松ちひやちひ毛のうまて
同日退出音声　安良山
大永二十一
をすちはつ大毛の浅よりいやそのの里葉乃
巳日参音聲　佐野永楊
里の海路地をの毛よりとひ口ろさの永とし
同日楽破　朝日郷
大永二十一
いはとを弱の里と言ふ毛ふ出すの分

同ノ樂意　大福山

万代と大きに山てよろこぶ松さかえ人しく毛紙さかえ

同ノ退出音声　秋福村

夫水井

あるよいたのしるしなるしるしてあるなる村

御屏風ノ歌　和歌十八首

甲帖　正二月　長谷山小松多生

あるよいたのしるしなるしるしてあるなる村

いと長閑なる梅の春人

梅原　梅花盛人歌之

以つれをうけてをるん梅原いとうしてあるなるみとれて

乙帖　三月　青柳村　柳花多

夫水巳

君のよい民のこころの引しるしてあるなるしるしの柳の心

白雲山梅花盛開行者見之

夫水巳

八重桜てるなるなるの梅花ならやとるなるん

山吹塔　歌ヲ同家行人見之

いとなるなるなるに吉野さくらの山ふきの塔

丙帖　五六月　長沼池　有採菖蒲人

夫水午

年てしなるなるなるのやうなる新ふかの池をとるなる

武蔵国　桔梗　基多

[illegible]

[illegible]

[illegible]

丁酉 七八月　石蕗　水仙系

むてらの苔よ流れしらるたのあれていとしくはへるん

[illegible]　色く苔花寒殺

[illegible]

[illegible]

戊戌 九十月　開月

板倉の山田多積稲人見之

板倉の山田より稲を運ぶを知るあ

[illegible]　運河物人多

[illegible]　紅葉壁客見之

[illegible]

己亥 十十二月　鷹尾山　付鷹狩人

[illegible]

[illegible]　菊田社　祭神祈

[illegible]

[illegible]　白雪太深

寺本氏

彩雲紀行さけ[illegible]

廉治元年十月三の指設反金利藤乃清いて

久つらとのいく[illegible]成佛道のこと藤そる

よ[illegible]を[illegible]てこそ[illegible]ふ[illegible]て

ゆそわしんの月をいつしてやこれにまくんぶくんてるん

人くゝ来て[illegible]むよ海色月を

紅のやをれる月のもゝやをいの雲のしつえのもれてみそう

月照菓花こそ事の彩雲のこゝろをのひしよ

歳をとゝ邑の菓仏地をこゝろこゝの月のてるる花

ゆそよまのうて[illegible]あ[illegible]の[illegible]ふ[illegible]れし

彩雲紀行

金山のゆつて[illegible]ひとゝ[illegible]若加賀やうりて

弥あゝ[illegible]るを[illegible]いて

寺源を都の[illegible]ひつて[illegible]す[illegible]の[illegible]と[illegible]れ[illegible]

彩雲仁和ちゝそ人くゝよ和[illegible]ま[illegible]

そそ中勢大[illegible]乗[illegible]こゝ[illegible]よ和同紅葉

といふ歌を

紅葉の雲のたゝまの紅葉やつゝりの海と桜とるん

たゝつ[illegible]ゆ[illegible]て来ゝて山[illegible]和[illegible]るといふて

をゝうに

いつゝそゝけいの水のて[illegible]ふ[illegible]ゝて[illegible]ゝ[illegible]

夏月

庚子の年のみそかに、かれる草の花のつとに、

野辺にて地獄脳を

ものがたりとかやいひし物語とかや、

九月三日九条殿にて世阿弥参りて、

ものがたりしたるついでに、

せかれ侍りしくまつりて月をまち

ものがたりしに、

九の月の月のかたぶくまでみよるかな

今宵の月を花にたとへば

ひとりのこいまさりけり

[illegible]中納言中将の菓長春日参上つかまつりたる

よしにて、おなじ御所の御部屋に清盛をいみし

く言ひて、世の物の形をもて出せりし

ものがたりしに、又の日雅楽をもて

絶絃のものにかはりぬ

[illegible]のみ、世のうれしんの乃ほとをかうるもなく

花の盛りにて、[illegible]

[illegible]ものがたりしに、南表の

て花の高さ

命あれば[illegible]

[illegible]

世をのがれしもの為こゝろを忘れて
きのふのうたをみてゝ花をうらやむ
そゝ紙をこゝろしらぬ人にもとめてさ
ぬるつせゝく
かゝりの花の匂いと地獄をまぬかれ
以後病中をくかゝる月をなむ忘れぬ

帝国図書館

寛元四年十一月九日備前九條入道知家本
自午時至申終書写弛筆早猥籍雖見解欠
右京門院眞觀

国立公文書館
National Archives of Japan

国立公文書館
National Archives of Japan